

会 議 録

会議名称	平成28年度 第3回加古川市スポーツ推進審議会
開催日時	平成29年1月12日(木) 午後4時00分から午後5時45分まで
開催場所	鹿児島荘201・202会議室
出席者	<p><委員> 高見会長、伊藤委員、小林委員、戎木委員、松野委員、後藤委員、難波委員、小寺委員、古林委員</p> <p><市> 田淵教育長、日浦部長、谷池次長、野村課長、田中課長、宮武副課長、小口係長、村上主事、飯塚書記</p>
会議次第	<p>開 会</p> <p>1 会長あいさつ</p> <p>2 教育長あいさつ</p> <p>3 報告事項</p> <p>(1) 加古川市スポーツ振興に関する市民調査報告について</p> <p>4 審議事項</p> <p>(1) 加古川市スポーツ振興基本計画の目標達成状況の検証について</p> <p>(2) その他</p> <p>5 その他</p> <p>(1) 2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に係る加古川市における事前合宿(キャンプ)の誘致概要について</p> <p>(2) 今後の加古川市スポーツ推進審議会のスケジュールについて</p> <p>閉 会</p>

審議内容(発言者、発言内容、審議経過等)	
開 会	
1 会長あいさつ	会長あいさつ
2 教育長あいさつ	教育長あいさつ
3 報告事項 (事務局)	(1) 加古川市スポーツ振興に関する市民調査報告について <事務局説明>
(委 員)	高齢者は、移動手段が限られており、車移動の場合も乗合せをして会場へ移動しなければならないため、運動・スポーツを行う場所は自宅から近

	<p>い方が望ましい。大勢の方が愛好しているグラウンド・ゴルフも各地域で実施する場所が少なく、運動・スポーツ実施率を高めるためには運動・スポーツ実施場所の整備も必要である。</p>
<p>(委員)</p>	<p>スポーツに関する情報については、市の広報誌から情報を入手される方が非常に多い。広報かこがわ1月号の新春座談会で小林委員の対談記事が掲載されているように、広報誌にスポーツの紙面を継続的に掲載できれば、イベント情報や施設情報、市にゆかりのある選手の活躍情報、市内スポーツ団体の情報等を効果的に発信できると思う。</p>
<p>(会長)</p>	<p>情報発信については、高齢の方ほど広報誌等の紙媒体から情報を得ており、若い方ほど SNS から情報を得ている傾向がある。</p>
<p>(会長)</p>	<p>運動・スポーツを行った施設について、自宅周辺や自宅、地域の公園・空き地の割合が高いが、これらの大半はウォーキングをされている方であると考えられる。今後行ってみたいスポーツは、ウォーキング・散歩が20.5%であり、ウォーキングを楽しんでもらえるよう、またそれを健康づくりにつなげるような工夫が必要である。</p>
<p>(委員)</p>	<p>加古川ツデーマーチの認知度が95.5%と非常に高く、加古川市のウォーキングはキーワードであると思う。</p>
<p>(委員)</p>	<p>運動・スポーツをまったく行っていない人の割合が25.9%という結果について、市では市民スポーツカーニバルやツデーマーチ、レガッタ等、様々なイベントが催されているが、結果をみるとそれらのイベントから刺激を受けて運動・スポーツを始める人が少ないというのが現実である。60歳代の方は、健康に関心がある方が多く、スポーツの実施率は高いが、反対に子育て世代やゴールデンエイジといわれる子ども世代のスポーツの実施率が低い。実施率は低い子育て世代や子ども世代においても、スポーツに対して興味がある方は多く、環境があればスポーツを子にさせたい親もいる。大規模なイベントだけでなく、地域の身近なところで運動できる環境を整えることについても模索する余地がある。</p>
<p>(会長)</p>	<p>現在、高齢者の運動・スポーツ実施率は非常に高くなっているが、反対に若い女性の実施率に関しては、極端に下がっている。幅広く生涯スポーツを考えたときに、若い世代から高齢の世代までがスポーツを実施する方法を考えていく必要がある。</p>

<p>(委員)</p>	<p>加古川ツデーマーチは非常に認知度が高いため、同様に広報を行えば、スポーツに関心をもつ方が増えるかもしれない。</p> <p>ウォーキングやランニング等の個人で気軽にできるツデーマーチ、マラソン大会等の認知度が高くなっている。</p> <p>現在、ごみ削減ののびりをたくさん掲げているように、人目につくように広報すればスポーツに関心をもつ方は増えると思う。</p>
<p>(委員)</p>	<p>ツデーマーチに関しては、町内会等地域への広報を強化し、団体に対して推進・啓蒙することが必要であると思う。一部の町内会は、ボランティアとして協力しているところもある。</p> <p>老人クラブは、ツデーマーチに団体申込制度を活用させていただいている。参加者の中には、参加賞のバッチや冊子への名前の掲載に誇りをもっておられる方もいる。</p>
<p>(委員)</p>	<p>クラブやチームへの加入状況について、加入していない方が 81.2%、NPO 法人加古川総合スポーツクラブへ加入している人の割合が 1.9%という結果となり、目標を達成できなかった。結果からも市民の方は個人でできるスポーツを望んでいることがわかるが、そのような中、いかにしてスポーツクラブに関心をもってもらうかを検討しなければいけない。スポーツクラブの加入者数は長年 3,500 人程度の横ばいであり、日岡山体育館の利用者数及び体育館が催している教室への参加者数についても横ばいであるため、同じ方が運動・スポーツを行われているように感じる。スポーツを実施されている方は増えているがスポーツクラブ会員が増えない原因を検証しないといけない。</p>
<p>(委員)</p>	<p>日本のスポーツは、非常にストイックで、日本人は海外の方と比較すると 1 つのスポーツにのめり込みやすく、興味がないスポーツは全く行わない傾向がある。一方、海外の方はスポーツを日常生活に取り入れる等、ストイックにスポーツに取り組むのではなく、楽しむことが前提にある。日本人は、スポーツを楽しむことを忘れて頂点を目指しすぎて、スポーツをする意義がわからなくなっているケースも多い。</p> <p>時間をつくって体を動かすだけがスポーツでなく、サラリーマンであれば通勤時に一駅手前で降車して一駅分歩いたり、エレベーターやエスカレーターを使用せずに階段を上がることもスポーツである。</p> <p>そのような、ちょっとしたスポーツを周知すれば、実施率は増えるのではないか。情報の発信内容としては、例えば、元々スポーツを行っていない肥満体型の方が、定年退職と同時にウォーキングを始め、そこから標準</p>

<p>(会 長)</p>	<p>体型となられたケース等を取り上げると、効果的であると思う。</p> <p>この度、広報かこがわ1月号に対談の記事を掲載いただいた。テレビやラジオに出演する以上に市民の方から声をかけていただき、広報誌の発信力の大きさを実感している。広報かこがわは、個人的には最終ページのかこがわかこがわっ子という、スポーツや文化の場で活躍されている小学生や中学生を特集した記事が好きである。それに加えて先ほど述べたような記事を掲載できると効果があると思う。</p> <p>子ども世代においては、遊び方がわからない子どもがたくさんいる。アスリートの育成面からいうと、遊びはとても大切である。現在、日本中に遊び方を教える教室ができていますが、スポーツをする子としない子が二極化しており、特に中・高校生の女子の二極化が著しい。</p> <p>スポーツに興味がない子どもにスポーツをしてもらえるように工夫することが課題である。また、アスリートの育成面から考えても、子どものスポーツ人口を少しでも増やすということが大事である。</p> <p>スポーツは好きだが体育は嫌いという学生がいる。ドキドキ感、ワクワク感をスポーツに感じられない学生が非常に多くなった印象を受ける。体育のイメージが良くなく、若い女性も体育はしんどいというイメージを持っている方が多いと感じる。</p> <p>運動・スポーツの実施率を高めるためには、テレビゲーム等の娯楽と向き合わないといけないのかもしれない。</p>
<p>(副会長)</p>	<p>主要な数値目標の中で、まったく運動・スポーツを行わない市民の割合を25%以下にする目標が1番達成したかったものだと考えており、その評価が○であるため、取り組みについては評価できると思う。</p> <p>スポーツの実施率に関しては、過去に学校の校庭を開放する取り組みがあったが、一つの事件をきっかけに学校を閉鎖してしまい、気軽に入れなくなってしまった。そういった社会的な状況についても影響しているように思う。</p>
<p>4 審議事項 (事務局)</p>	<p>(1) 加古川市スポーツ振興基本計画の目標達成状況の検証について ＜事務局説明＞</p>
<p>(会 長)</p>	<p>運動・スポーツの実施率については、週1回以上運動・スポーツを行う人の割合が増え、まったく行わなかった人の割合が減っている。それだけ、</p>

	<p>スポーツをする人が増えているが、日常生活において実感等はあるか。</p>
(委 員)	<p>歩いている人は確かに増えた。以前の日岡山公園は、人が少なく歩くのが怖い公園であったが、公園内が整備され、今は歩く人がとても増えている。早朝から深夜までウォーキングをしておられる。</p>
(会 長)	<p>スポーツ種目の現場ではどうか。</p>
(委 員)	<p>小・中学生にバスケットボールを指導しているが、参加者は非常に多く、現在は入部を待ってもらっている状況である。</p> <p>昔の指導方法ではただしんどい練習になってしまい、人が集まらないが、遊びを取り入れながらスポーツを行う等、楽しい種目を心がけ、その中でバスケットボールに関する体の使い方を覚えさせている。</p>
(会 長)	<p>調査結果では、スポーツクラブや同好会への加入率が低いが、実感としてはどうか。</p>
(委 員)	<p>スポーツクラブに加入している方は、充実して活動されている。新たな方に加入してもらう手段はPR しかないため、PR 方法について工夫しないといけない。この度、ホームページを若者向けのデザインに変える予定にしている。</p> <p>現在、スポーツクラブ会員は約 3,500 人で、高齢者と子どもが多く、中間層が少ない。小学生は中学生になると退会してしまうのが現状である。</p> <p>高齢者の人気種目は、卓球とグランド・ゴルフが人気である。以前であれば、バレーボールが人気であったが、最近はバレーボールをされる方は減った。</p>
(会 長)	<p>スポーツクラブでウォーキングをする方を対象にしたプログラムを提供するような企画は考えていないか。</p>
(委 員)	<p>以前は、スポーツクラブが独自にウォーキングコースを設定し、定期的に希望者を募ってウォーキングを開催する計画があった。しかし、ウォーキングをするためにスポーツクラブへ加入する方は少ないことや市内に様々なウォーキングコースがあり、独自にコースを設定しても魅力があまりないことからウォーキングに関するプログラム提供の計画はなくなった。</p>

(会 長)	ウォーキングを愛好されている方には、手軽にできることや人と交わらなくてもよいことが魅力なのかもしれない。
(会 長)	競技場やスタジアムでスポーツを観戦する市民の割合について、目標では50%以上としていたが、結果は28.4%となっているがどうか。
(事務局)	この項目については、前回の調査から設問を変更している。「試合会場に赴き」という語句を加えたため、前回調査まではテレビ等での観戦も含まれていたが、今回は実際に会場で観戦した場合のみが対象となった。そのため数値が下がったと考えている。
(会 長)	若い世代は、インターネットでスポーツを観戦する人も増えている。
(副会長)	市内で開催されるバレーボールやバスケットボール等の大規模な大会数の増減についてはどうか。
(事務局)	Vリーグについては、毎年1回程度開催しているが、日程が決定する時期が遅く、日程が確定するころには、既に体育館の予約が入ってしまっており、空き状況によっては開催できない年もある。
(事務局)	15年ぐらい前であれば、プロ野球のオリックス球団がグリーンスタジアム神戸本拠地としており、イチロー選手を観に行くなど、スポーツを観戦する機会が多かった。現在、オリックス球団は本拠地を変更しており、観戦する機会が減ってしまったことも原因の一つとして考えられる。 また、設問が競技場やスタジアムでスポーツを観戦するようになっており、加古川河川敷でソフトボールの大会を観戦されている方は、会場に赴きスポーツを観戦している意識がないかもしれない。
(副会長)	郡市区対抗駅伝大会は、現在、加古川河川敷で開催されているが、加西市で開催されていたときと比べてどうか。加古川河川敷の付近は駐車スペースがなく、なかなか応援にいけない。
(委 員)	加西市で開催されていたときの方が走りやすかった。
(委 員)	河川敷でよくソフトボール大会が開催されているが、一般市民が河川敷へ応援に行こうとは思わない。試合を観戦しやすい球場等の会場がないと、一般の方はなかなか応援にいけないと思う。

<p>(会 長)</p>	<p>この設問では、プロスポーツや大規模イベントだけでなく、身近な会場での観戦も含めた、スポーツを観戦した方を把握したかったが、そのような方を把握できていない可能性もある。</p>
<p>(委 員)</p>	<p>身近な会場で観戦した方については、設問 No. 14 の観戦したスポーツには、回答されていると思う。</p>
<p>(会 長)</p>	<p>立ったまま観戦しないといけない会場もあるが、仮設の観覧席等を設けるだけでも、観戦する人数は増加すると思う。現在は、観戦する環境が整っていないように思う。みるスポーツについては、次の計画でも盛り込まないといけない。</p>
<p>(会 長)</p>	<p>スポーツ・ボランティア活動を行う市民の割合について、数値目標は20%以上であるが、達成できていない。ツデーマーチや市内で行われているイベントにボランティアとして参加されている方は大勢おられると思うがどうか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>設問では、スポーツ・ボランティア活動としているが、ツデーマーチのボランティアスタッフは、ツデーマーチがウォーキングイベントのため、スポーツ・ボランティア活動という意識がないかもしれない。</p>
<p>(会 長)</p>	<p>スポーツ・ボランティアを整理して伝えると、理解してもらえるかもしれない。</p>
<p>(委 員)</p>	<p>ツデーマーチやマラソン大会の参加者数の推移はどうか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>ツデーマーチの参加者数については、若干減っているがほぼ横ばいであり、マラソン大会については毎年定員を満たしている。</p>
<p>(委 員)</p>	<p>現在、マラソン大会は、全国に約 900 大会ある。加古川マラソンは歴史のある大会であるが、新設されたマラソン大会がとても人気となっている。新設大会は都市部の大会も人気であるが、特に田舎の風景を楽しむことができる大会がランナーに好評である。近年は、大会数が増えているため、ランナーが魅了のある大会を選んでエントリーをするようになっていく。兵庫県内では、応援者が多いことから姫路城マラソンが人気である。 加古川マラソンは河川敷コースのため、ランナーとしては風景の変化が</p>

	なく少し辛い部分がある。そのため、応援者に来場してもらいやすい環境整備が必要であると思う。
(委 員)	私は毎年、加古川マラソンに応募している。参加者の感想をきくと、風景に変化がなく、おもしろくないという声もあるが、コースが平坦のためタイムが出やすいといった声もあり、人気があると思う。
(事務局)	加古川マラソンの場合、河川敷コースのため風景の問題については、ハード面からすると改善が難しいが、年末最後の公認大会であること、タイムが出やすい大会であることを特色としている。今後も、そのような特色を活かして大会を運営していきたいと考えている。
(委 員)	以前は、河川敷でなく公道を走っていた時期があり、そのときは沿道で応援している人もたくさんおられた。河川敷コースが公認となってからは、河川敷で開催されるようになったが、その頃から応援者が減ったように思う。
(委 員)	スポーツ・ボランティアが年々減っている要因はあるか。
(事務局)	平成18年度にのじぎく兵庫国体が開催され、ボランティアとして大会に関わった方が大勢おられた。そのため、平成19年度の調査に反映されている。
(副会長)	兵庫国体のときは、ボランティアとして募集していたか。それとも動員か。動員であれば、参加者はボランティアという意識はないかもしれない。
(会 長)	少年野球でお世話をしている保護者についても、ボランティアに含まれるため、スポーツ・ボランティアとはどのようなものを明確に説明する必要がある。
(事務局)	市ではボランティア制度が決定し、放課後チャレンジクラブ等で子どもにゲートボールやグランド・ゴルフを教える指導者へボランティアポイントカードを配付する予定である。そのような指導者もスポーツに関わるボランティアとして、今後増加していくと思う。
(会 長)	以前に比べると、スポーツ・ボランティアという言葉が浸透してきたが、ボランティアとしての垣根は高い。さらにスポーツに関するボランティア

	<p>となるとより垣根が高くなり、なかなかスポーツ・ボランティアという意識が定着しないということもある。</p>
(会 長)	<p>次に、運動・スポーツを行う施設や場所で、市民の 10%以上が利用する施設や場所の数についてはどうか。</p>
(委 員)	<p>設問に市内の施設等が記載されているが、施設以外にも高御位山がある。現在は、登山が人気であり、全国から高御位山にいられている。高御位山は車でしか行けない場所にあるが、自分がしたいスポーツであれば、場所は関係ないようにも思う。</p>
(会 長)	<p>そういった場所は、広報よりも人伝いで情報が広がっていく。</p>
(委 員)	<p>去年は、テレビでも取り上げられていたため、その影響もあったと思う。</p>
(委 員)	<p>高齢者は車移動が難しいため、集会所等で体を動かせる環境を整えることも大事であると思う。イキイキ 100 歳体操は、集会所で実施されていることが、体操が広がっている要因の 1 つであると思う。</p>
(委 員)	<p>一昨年頃、市でラジオ体操を普及しようとしていたが、現在はどうか。</p>
(委 員)	<p>数年前に老人クラブ及び町内会にラジオ体操の CD 等が配付され、現在も老人クラブでは使用している。</p>
(委 員)	<p>朝に集まってラジオ体操を実施されているところもあるように、もっとラジオ体操を普及していけばよいと思う。</p>
(委 員)	<p>各種様々な団体があるので、団体への周知が効果的であると思う。個人で実施するのは難しい。現在、老人クラブ会員は、減少しており、入会せずにグラウンド・ゴルフやバレーボール等の自分が行いたいスポーツをするために、スポーツ団体へ加入される。奉仕作業をするような団体には入りたくないという方が多い。</p>
(会 長)	<p>次に、スポーツイベント・教室を知っている市民の割合については、それぞれ、達成率が 122.4%と 180.6%で評価が◎であるが、イベントを知っている人に参加してもらえるように工夫しないといけない。</p> <p>その他、全てをまとめて意見等はないか。</p>

<p>(委 員)</p>	<p>全体を通して、プラス面は、スポーツイベントだけでなく、スポーツ交流館、日岡山体育館、ウェルネスパーク等の身近な施設のスポーツ教室の認知度も高まっており、施設についても市民に浸透している。</p> <p>マイナス面は、スポーツ・ボランティアを行った市民の割合の伸びが低く、また今後スポーツ・ボランティア活動を行ってみたいという意識も低い。そのような中でも、20代男性は意欲のある方が多かった。</p>
<p>5 その他 (事務局)</p>	<p>(1) 2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会に係る加古川市における事前合宿(キャンプ)の誘致概要について <事務局説明></p>
<p>(事務局)</p>	<p>(2) 今後の加古川市スポーツ推進審議会のスケジュールについて <事務局説明></p>
<p>(会 長)</p>	<p>平成29年度についても審議会を4回開催し、次期スポーツ推進計画の策定について、審議していく。</p>
<p>閉 会</p>	